

2004 年 8 月 10 日

関西電力株式会社社長 藤洋作様

美浜原発 3 号炉で 4 人の方が亡くなった事故に対して、 緊急の申し入れ

若狭連帯行動ネットワーク

8 月 9 日、美浜原発 3 号炉のタービン建屋で、復水器の配管が破断し、高温、高圧の蒸気が噴出し、11 名もの方が被災し、そのうち 4 名の方が亡くなったと、報道されました。報道写真を見ると、厚さ 1 cm もある鋼鉄が見るも無惨にベロッとめくれています。10 日の報道では、厚さ 1 cm が、0.14 cm にも減っていたということでした。「どうして、今まできちんと点検していなかったのだろうか。」と、貴社に対する不信感を増幅させました。

しかも、貴社の発表によれば、今回の破断を起こした配管は、原発運転開始時から、一度も点検していないということでした。なんということでしょう。18 年前には、アメリカの原発で同様の事故を起こしていたにもかかわらず、それでも点検しなかったということでした。貴社の原発安全管理は、これほどまでもお粗末だったのかと、絶句してしまいました。

それでも貴社は、今回の事故が起こっているにもかかわらず、「他の原発を止めて点検など考えていない」などと、言い放つ始末です。このような企業が、危険な原発を動かしていることに、今更ながら恐怖感を覚えます。即刻他の原発を止めるべきです。そして、他の原発も徹底して調べるというのが、企業が示す責任ではないでしょうか。

今回の事故は、2 次系の冷却水漏れで、放射能は外部に出ていないと報道していますが、この事故を契機に 1 次系の冷却水が冷やされず、炉心溶融へといたるという原発重大事故の危険もあったのです。

私たちは、8 月 2 日に貴社と交渉をもちました。私たちは、火力発電所などでの問題点を指摘しました。定期事業者検査の記録のねつ造、品質記録の書き換え、管理基準値の書き換え問題を追及し、貴社の品質管理に関する体質を批判しました。原発でも同じようにしているのではないかという疑問に対して、貴社は、「原発では皆さん方の厳しい指摘があり安全管理をきちんとしているので、火力とは違います」とか、「ごまかしてことを進めるのは、決して社風ではありません」と、原発では、しっかりと安全管理していると弁明していたではありませんか。その矢先の今回の事故だったのです。

原発でとうとう死者まで出してしまいました。

私たちは、貴社に対して、つぎのことを強く求めます。すぐに実行してください。

今回の事故を受け、他の原発を即刻止めること。そして徹底した点検を行うこと。
プルサーマル計画を中止すること。

今回の事故の原因究明を徹底して行い、関西、福井で公開の説明会を開くこと。